



山内市長に目録を手渡す小山社長（右）

小山組が市に寄付
創業節目に支援

創業70周年を迎えた株式会社小山組(小山茂社長)は1月28日、創業の節目を記念して市に700万円を寄付しました。小山社長は「皆さんに支えられ節目を迎えることができました。これからも努力を続けます」と山内隆文市長に目録を手渡しました。

山内隆文市長は「震災で大きな被害を受けたにも関わらず、広域の復旧に尽力いただきありがとうございます」と感謝しました。寄付金は震災復興に充てられます。

災害公営住宅や防潮堤など整備

被害が大きかった久慈湊・大崎地区、長内町元木沢地区、長内町玉の脇地区、宇部町久喜地区の4地区について、市では「漁業集落防災機能強化事業」と「災害公営住宅整備事業」を組み合わせた集団移転事業などを進めています。

また、久慈川と夏井川の下流では河川堤防や防潮堤の整備を、久喜漁港海岸では防潮堤、水門、陸こうの整備を進めています。

復旧・復興のロードマップ

分野	主な事業内容	整備スケジュール				
		H 23	H 24	H 25	H 26	H 27
海岸保全施設の整備	防潮堤、水門の整備	応急対策	施工準備	工事		
漁業集落の防災機能を強化	集団移転用地造成、防護柵の設置など	事業準備	事業計画策定	※用地造成は平成25年度末に完了予定 事業実施		
災害公営住宅の整備	久慈湊・大崎、元木沢、久喜地区で建設		用地・造成	設計・工事		



出前水族館で子どもたちに魚のことを説明をする宇部さん

まちなかの経験を
新しいもぐらんぴあへ

まちなか水族館の誕生と運営に尽力

震災後、「もぐらんぴあ・まちなか水族館」を開館することが決まった時、喜びとともに適当な施設にはできないと思いました。当時、全国から届いたたくさんの方の励まし、メールの後押しと、さかなクンの全面的な支援を受けながら、スタッフとまちなか水族館の準備を進めてきました。震災の年の8月に完成した水族館には全国からたくさんの方が訪れ、開館から2年で15万人以上が来館しました。今も、もぐらんぴあの再開を待ち望むファンの声が私たちの元に届いています。まちなか水族館の経験を生かして、将来、復旧するもぐらんぴあが地元から長く愛される水族館にしていきたいです。



もぐらんぴあ・まちなか水族館

宇部 修 代表

復旧・復興から飛躍へ

復旧・復興・飛躍は市の大きな目標です。市内の復旧が進み、復興を加速させる動きも見えてきました



建設が進む久慈湊・大崎地区の災害公営住宅

全力で再建、振興も

震災からの復興のリーダーングプロジェクトとして、国が整備を進めている三陸沿岸道路。昨年新たに、普代―久慈間と待浜―階上間が着工になり、国道45号久慈北道路の工事も順調に進んでいます。一方で自宅の再建に向けて努力している被災者も少なくありません。現在も市内2カ所に設置されている応急仮設住宅には21人が入居しています。市では、まだ完成していない災害公営住宅や避難道路、避難所などの整備を全力で行い、併せて、被害が大きかった地域を中心に防災機能の強化を進めていきます。



昨年9月12日、洋野町で行われた三陸沿岸道路の起工式

また、平成26年度は「久慈地下水族科学館もぐらんぴあ」や「小袖海女センター」などの復旧と再建、観光の振興を進めていきます。

復興・復興の先に

復旧が進み、これからは支援を受ける立場から、自分たちが育て上げてきた技術やつなかりを活用して復興やその先の飛躍を目指す段階を迎えつつあります。

復旧・復興、飛躍は市全体の大きな目標です。これからも震災の体験を忘れることなく、早期の完全復旧と復興、そして飛躍をめざして、市民みんなでまちづくりを進めていきましょう。



災害公営住宅の建築に汗を流す大工

熱い支援に感謝

支援物資、義援金、寄付金

寄せられた義援金
1,191 件
9,207 万 4,926 円

(2月10日現在)

全国各地から支援物資や義援金、寄付金が寄せられました。ご支援ありがとうございます。

1月11日～2月10日受付分
(敬称略)

支援物資

■県外■

【神奈川県】▶江川福子

【福岡県】▶徳永照子

義援金

■県外■

【東京都】▶村田武人

【神奈川県】▶神林洋行

■県内■

【団体】▶(有)ワイアンドケイ

■市内■

【団体】▶久慈中学校生徒会ボランティア委員会

■口座振替■

▶シゲマツエツコ

寄付金

■市内■

【団体】▶(株)小山組

■その他■

▶匿名3件